

# サビエル生誕五百年



# 巡礼の道

藤屋 侃士  
(下松市幸ヶ丘)

86

## 栄枯盛衰

元日の朝八時過ぎ、玄関のチャイムが鳴った。正月の早朝から誰だろうとドアを開けると「年賀状です」。こんな早い時間に、しかも手渡しは初めてのこと。民営化されたからであろうか。

我が家の賀状はここ数年、夫婦の旅のスナップ写真を使っていたが、今年は昨秋に結婚した長男の結婚披露宴での家族集合写真を使用した。

届いた賀状の中には子供たちだけの写真を印刷したものが十枚近くある。自分は枯衰しても、子供たちが栄盛を担ってくれるという親の願いのようなものを感じられる。

旅をしていて栄枯盛衰を感じることが多いのは「遺跡」である。トルコ最大の遺跡、エフェソ。図書館、神殿、円形劇場、大理石通りなど、当時の栄華が十二分に想像できる。

エフェソに最初に都市が建設されたのは紀元前十二世紀ごろ。現在の遺跡は紀元前一世紀ごろのローマ帝国支配下の都市跡で、そこには二十万人余りが住んでいたという。

今は物売りど観光客だけ。「エフェソ」という地名も使われておらず、現在は「セルチユク」。エフェソは遺跡の名前だけである。これはエフェソに限らず、世界各地の八百五十一カ所が世界遺産に登録されている。

現在、世界各地の八百五十一カ所が世界遺産に登録されている。昨年、石見銀山遺跡がどんでん返しで日本で十四番目の世界遺産に登録されたことは記憶に新しい。

トルコは九カ所が指定されている。今回の「こは」は今も発掘調査が続いている

旅をしていて栄枯盛衰を感じることが多いのは「遺跡」である。



「コンスタンチノープル」は「イスタンブール」に、「ニケア(最初の公会議が開催された所)」は「イズニツク」に、「スミルナ」は「イズミール」に等々である。

何よりも残念に思ったのはエフェソ遺跡が世界遺産にも登録されていないことである。

トルコがキリスト教ゆかりの地、エフェソ遺跡を、ユネスコに強力に登録申請をしないのはイスラム教の国だからなのだろうか。人の世の栄枯盛衰にとられることなく、聖なる永遠のものの中に価値を見つけないければ、と賢い妻は言う。こうして使徒パウロの「エフェソの信徒への手紙」を改めて正月に読んだのである。(元山口放送取締役ラジオ局長)



こはは今も発掘調査が続いている